2019年4月某日

差枚	-1465枚	RANK	B

実戦機種

SLOTバジリスク～甲賀忍法帖～Ⅲ、パチスロ蒼天の拳 朋友
パチスロ猛獣王 王者の咆哮

実戦レポート

この企画も長いことやってきて、当たり前だが各ホールの傾向はそこそこ掴めてきている(つもり)。今回のホールは、新台の強さにはかなり定評があり、「全台高設定シマ」になる事も非常に多い。というわけで、本日の本命は導入されたばかりの「パチスロ猛獣王 王者の咆哮」しかない！　…という作戦を、おそらく抽選に参加した人の半分以上は考えているだろうなァ。

そんな中でオレが引いた番号は「37番」！　終わった…。というか、何を打ったらいいかまるで分からないぜ！　ノーマルタイプ？　AT・ART？　それともバラエティ？　どのコーナーにも高設定が入る可能性はある。…が、結果的にその何れにも狙いを定められないまま、人の流れに身を任せて流れ着いたのは、バラエティの「SLOTバジリスク～甲賀忍法帖～Ⅲ」。やっぱり好きなんだよなぁコレ。あと一応、過去2回連続で高設定っぽい挙動だったという事実もある。

何だかここまで、全くと言っていいほど実力者っぽい動きをできていないが、このバジリスクⅢが序盤から弱チェリー頻出で、高設定の匂いを漂わせ始めるのだから、人生分からないもんである。あとはCZの当選率だな…。設定6か、それ以外かでは大きな差があるので、できれば6を打ちたい！　以前別の機種でも書いたが、設定4や設定5を意識した実戦は、低設定を“打たされている”危険をはらむことが多いのだ。しかして、その結果は…

通常周期、3連続スルーを確認！　設定6の可能性、かなり薄まったでござ候！　まぁ、そうだろうな。そうホイホイ6を掴めるようなら、このバジⅢがそもそも空き台になっていないだろうよ。設定4・5の可能性はまだ残しながらも、一旦移動してみた先は「パチスロ蒼天の拳 朋友」。いい感じに競争率が低く、それでいて設定の偶・奇は早めに分かりやすく、小役カウントも有効という、まさにこの企画向けの設定推測要素が豊富な台だ。それゆえに、1回あててバトルボーナス中の示唆が奇数寄りで、しかも小役も悪いとなると「ダメだこりゃ」ってすぐなっちゃうんだけどね。そう、今打っているこの台のことだよっ!!

今度こそ困った。移動先が全く無いぞ。闇雲に空き台を打ち回るよりは、まだバジリスクⅢに戻った方がマシか？　と、出戻りを決意したその時、猛獣王で金トロフィー(設定4以上)を確認していたユーザーが、「もう諦めるので、打ちますか？」とのこと。打ち…打ちま…打ちますとも!!　この企画に「譲ってもらうのはNG」というルールは無いからね！　そして閉店間際までブン回したところ、出玉は増えるどころか1000枚以上減らして終了。この経験、プライスレス…！